

西九州小中学生書道大会 入賞者

三和
紅湖
三年原田美沙希



良い締めくくり

原田美沙希さん(15)

長崎市立三和中3年

中学生最後の大会で、必ず受賞したかった。選ばれたと聞いた時は信じられなかったけれど、すごくうれしかった。

小学2年の時に書道を始めて、小学6年から4年連続で地区代表。昨年は県知事賞だった。週1回の練習では、線の太さや全体のバランスを保つことを意識した。普段の行書は細い線になりがちだから、本番は力強さが出るように筆を運んだ。

去年は緊張で字がぶれたけれど、今年は手が震えず、落ち着いて書き上げた。良い締めくくりができた。これからは条幅など半紙よりも大きい紙にも挑戦したい。

4人に文部科学大臣賞

今月16日長崎で表彰式

R6. 11/17(日) 長崎新聞より

上位入賞者を表彰 長崎

西九州小中学生書道大会



徳永社長から文部科学大臣賞の賞状を受け取る長崎市立三和中3年の原田さん
＝長崎新聞文化ホール・アストピア(中村亮撮影)

第74回西九州小中学生書道大会(長崎新聞社、長崎新聞文化ホール主催)の表彰式が16日、長崎市茂里町の長崎新聞文化ホール・アストピアであり、上位入賞者47人に賞状とトロフィーが授与された。

県内外から2762人が応募。1次審査を通過した地区代表332人が県内5会場で開かれた即席大会で学年別の課題に挑んだ。表彰式には最高賞となる文部科学大臣賞4人、県知事賞9人、11市の市長賞34人と

その家族らが出席した。

式では長崎新聞社の徳永英彦社長が「独特の緊張感の中で実力を発揮された結果。さまざまな作品に挑戦し、新しい発見を楽しむ書道を」とたたえた。長崎書道会の田口瑞峰学生部審査委員長は「力強く伸び伸びと書かれた素晴らしい作品が数多く見られた。努力を積み重ね、さらなる成長を期待したい」と講評した。

文科大臣賞を受賞した長崎市立三和中3年の原田美沙希さん(15)は「(自身)

最後の大会だったので(同賞を)絶対に取りたいと頑張ってきた。今でも信じられないが、すごくうれしい。これからも書道を続け、いつかは教える立場になりたい」と喜びを語った。

(養川裕之)